

調査報告書

「移行期」における保・幼・小連携に関する調査とその結果

- 「小学校入学前サポートシート」作成のために -

Research on cooperative relations between preschools and elementary schools
: For improving “Elementary School Pre enrollment Support Sheet”

梶井 正紀

Kajii Masanori

Key words: 小学校入学前サポートシート 保護者 幼児教育アドバイザー

1. はじめに

小学校に入学してまもない小学校1年生は、「集団活動がスムーズに行えなかったり、学校生活のルールが理解できなかつたりすることから、集団行動が取れない、授業中に座ってられない、話を聞けないなどの状態が数カ月継続する」¹ことがある。いわゆる「小1プロブレム」といわれるものであり、この課題を解決するため保育者は「保育実践の蓄積を、就学先である小学校へきちんと伝える必要」²があると指摘されてきた。文部科学省（2012）は、「一部の自治体では、域内に在住するすべての就学予定者を対象として、幼稚園、保育所等における成長・発達の様子や必要な支援について記入した『就学支援シート』を作成し、それぞれの学校で保護者と担任等が子どもの学校生活、学習内容を検討する際に活用しており、このような取組を拡大することも重要」³であると説明している。

例えば、八王子市では、就学前から小学校までの移行期の引継ぎのため、保護者を交えて『連携シート』を作成した。これは、単に機関同士のみの連携ではなく、「保育を通してどれだけ保護者に寄り添っているか」⁴とする観点から、支援・援助が必要な子を持つ保護者や園の保育者に記入を促し、移行期の不安を軽減するものとされる。また、三鷹市では、移行期において『就学支援シート』を作成し、「幼児の課題やそれに対して幼稚園や保育園が行っている支援について、保護者と就学前の担当者が共同で作成するもの」⁵とした。しかし、これらは障害のある子や特別な配慮を必要とする子、不安を抱える子をもつ保護者等を対象とした側面が強かった。学術的には、障害のある子を対象とした就学支援シートのあり方として、久原（2013）は、「就学支援シートというツールだけの連携では、対象児のことを伝えるには限界がある」⁶ことを指摘し、幼稚園教諭と小学校教諭の対話の必要性を考察した。また、本杉（2014）も、支援ツールだけで

はなく、支援システムの充実を行い、人を介した「情報の再確認を行うことが重要」⁷であるとした。河口（2015）は「就学支援シートを作成するだけでなく、作成しながら保護者とともに振り返り、連携できる経路を準備することが必要」⁸とした。いずれも、移行期に連携を図るためには限定的な支援シートのみでは難しい現状にあること、意見交換（人とのつながり）を行う場を用意すること等の課題を指摘している。白取

（2018）は東京都の就学支援シートに焦点を合わせ、シートに関する保育士のニーズを明らかにしたが、特別な支援を必要とする子どもの就学に関する調査に特化した内容であった。このように、限定的ではないすべての就学予定者を対象としたシートに関する調査研究報告書は存在しない。

そこで本調査報告では、移行期におけるすべての子どもと保護者の実態を接続するためのサポートツールとして開発した「小学校入学前サポートシート」（資料2）を幼稚園に在籍する年長児の保護者と行政側（市町村教育委員会）の幼児教育担当者に対して提示した。

2. 「小学校入学前サポートシート」について

小学校入学前サポートシートは、移行期における子どもの実態と保護者の思いを小学校へ引き継ぐためのツールであり、移行期の子どもの姿と保護者の不安を的確に把握することを目的として作成された。

茨城県保幼小接続カリキュラムの3つの柱である「学びに向かう力」、「生活上の自立」、「心の成長」（幼児期の終わりから小学校入学期までの子どもの姿の育成）の各項目から幼児期（5歳児夏頃）から小学校入学期までの項目で特に必要であるとされる内容を精選し、カテゴリーごとに位置づけた。

配布から回収までのプロセスとしては、11月に実施する就学時健康診断時に担当者が保護者に配布し、2月下旬に園（担任）が保護者の承諾（同意）を得て回収する。保護者にはあらかじめ作成上の意義を提示した後で提出の義務を課し、保育園や幼稚園等の担任が責任をもって回収してから実態の把握に努める。その後、保・幼・小における連絡協議会等での引継ぎツールとして活用できるようにする。最終的には、小学校入学後に担任が目を通し、学年会での検討資料（家庭訪問基礎資料）として活用できる。

以下では、「小学校入学前サポートシート」の開発に至るまでの経緯を整理しておく。各教育委員会指導主事、小学校教諭、幼稚園教諭、学生については事前に本研究で使用する旨を文書や口頭において伝達し、承諾を得た。原本は著者が作成したが、第1版から第5版の検討内容の経緯を経て、**version**を改定し現在は第5版とした。以下の表1にてその経緯を記載した。

<表1> 第5版に至るまでの経緯の記載

version	日時	検討場所	所要時間	検討内容
第1版	平成30年 5月	・某教育委員会指導主事3名	50分 * ディスカ	①同様のシートで保育者用は業務を行う上で、負担となることから、保護者用のみのツールとして活用すべき。

		・茨城女子短期大学（ゼミ学生 11 名）	セッションを実施し、検討を実施	<p>②保護者記入欄と保育者記入欄があると、両方とも意識してしまい、記入者が受け身となり、子どもに対して感じていることを記入することが難しくなる。</p> <p>③学びに向かう力にある「興味があることを工夫して遊ぶことができる」は具体性に欠けているため、保護者が考えることは難しいことから、「興味があることを」を削除が必要である。</p> <p>④心の成長にある「ありがとうなどの感謝の気持ちを言葉で相手に伝えることができる」の項目については、提示する際に説明が必要である。</p>
第2版	平成 30 年 6 月	・某小学校教諭（小学校 1 年生の教諭 5 名）	20 分 *ペア・グループワークやディスカッションを実施し、検討を実施	<p>①学びに向かう力にある「感じたことを言葉・絵・動きなどで表現できる」は具体的なイメージが捉えにくいことから削除が必要である。</p> <p>②学びに向かう力にある「数字を 1 から 10 まで数えることができ、絵を形として捉えることができる」は表現が難しく伝わらないことから、「絵を形として捉えることができる」は分けて記載した方がよい。また、例えば、人の絵がかけるや△○が描ける。の方が良いのではないか。（分類して記載）</p> <p>③生活上の自立にある「1人で食事ができ、マナーを守ることができる」のマナーを削除し、箸を使える方が現実的なのではないか。</p> <p>④生活上の自立にある「大便が 1人ででき、衛生面（手洗い等）に気をつけて生活することができる」は、カテゴリーが多すぎるので、1つにした方がよい。（答えに迷ってしまうことが予想される）とされたことから、「大便が 1人ででき、手を洗うことができる（衛生面）」とした。</p> <p>⑤心の成長にある「友達とつながりを持ち、遊びの中で充実感・達成感を味わうことができる」の「充実感・達成感を味わうことができる」は難しいので、「複数の友達と遊びことができる」に変更した方がよい。との意見があったが、残した方が良いとする意見もあったためそのままとした。</p> <p>⑥心の成長にある「『ありがとう』などの感謝の気持ちを言葉で相手に伝えることができる」は、生活上の自立の欄に挨拶の項目があるので不要なのではないか。（今後の検討事項）</p>
第3版	平成 30 年 7 月	茨城女子短期大学（ゼミ学生 11 名）	30 分 *ディスカッションを実施し、検討を実施	<p>①生活上の自立にある「あいさつや返事ができ、ルールを守って生活できる」は 2つのカテゴリーが入っているため、それぞれ分類するなどの整理が必要である。「あいさつや返事ができる」、「ルールを守って生活できる」が良い。</p>

第4版	平成31年 (令和元年)5月	某小学校教諭 3名・某幼稚園教諭3名、 幼児教育アドバイザー1 (名)	30分 *ディスカッションを 実施し、検討を実施	①第2版の検討内容と主な改善点の⑥の挨拶関係の課題については視点が異なるため両方とも残した方が良い。 ②学びに向かう力にある「絵を形として捉えることができる」は「見たものを形として捉えることができる」に変更した方が良い。
-----	-------------------	--	--------------------------------	---

- 1) 第1版改訂では、某教育委員会指導主事3名と保護者用・保育者用の書式（書式は2つ同様のもの）について検討した。保育者用は「少人数の園では対応可能であるが、多人数の園では保育者の負担になる」とする意見が多く出された。また、第1版の記載項目には、保育者記入欄と保護者記入欄が合わせて用意されていたことから、「保育者の記入欄は不要である」とする指摘が出された。これは、保護者の承諾印（同意）を得る際に、「双方のずれがあると承諾を得ることは難しい」とすることを懸念したからであった。
- 2) 第2版改訂では、実際に小学校第1学年の教員5名で改善点を検討した。実際に小学校第1学年の教員が必要としている情報であることを念頭に置きながら、保護者との連携を図る上で各項目における気になる表現等に焦点を当て改善点を吟味した。表現については、イメージが捉えにくいこと、具体性に欠けること、回答に迷ってしまう項目については検討・改善が必要とする意見もまとめられた。また、担任の意見として「1人ずつ読むのに時間がかかることもあるので、ピックアップして提示することも重要」とする意見が出された。
- 3) 第3版改訂では、短期大学生（2年）のゼミナールにおいて改善点を検討した。検討会では、生活上の自立にある内容について「保護者の方ができるだけ質問内容を理解できる項目にすることが重要である」とする意見がまとめられた。特に、「学びに向かう力」は保護者からすると不安要素が高い質問項目であるため今後検討が必要であるとする意見・指摘があった。
- 4) 第4版改訂では、小学校第1学年の教諭と幼稚園教諭、幼児教育アドバイザーが合同で改善点を検討した。冒頭ではすべての保護者に提示する際に、保護者用リーフレット（資料1）を説明する担当者に関することや記入する際の留意事項の確認等に関する質問が出された。具体的な改善点については、学びに向かう力に関する項目に関する指摘であった。「絵を形として捉える」とする表現よりは、「見たものを形として捉える」とする項目の方が保護者には伝わりやすいとの意見が多数出された。（例えば、おにぎりの絵を見て、三角の形を描いたり、時計を見て球を描いたりするようなイメージが広がるため）

主な作成スケジュールについては、就学時健康診断（11月）時に担当者（指導主事）から保護者に対して、丁寧な説明を実施する。具体的には、子どもの困っている課題があるがゆえに「小学校入学前サポートシート」が必要なのではなく、就学前から小学校に接続するにあたり、子どもの得意なことを1つでも多く見つけ、それを伸ばすことができる環境を用意することを目的としていることを保護者に伝達していく。

「小学校入学前サポートシート」の回収時期としては、2月を目安とし、保育園や幼稚園等の担任が責任をもって回収に努める。万が一、外部の専門機関等と連携を図っている保護者がいる場合には、個別の教育支援計画と合わせて丁寧に面接を行っていくことが重要である。小学校へ提出する時期としては、3月中旬を目安とする。ただし、公立学校のブロックにおいて連絡協議会（引継ぎ会）を実施している地域においては、連絡協議会での参考資料として活用することが望ましい。小学校ブロックごとの連絡協議会を実施していない地域は、小学校へ担当者が出向き指導要録と合わせて丁寧に本人の実態と保護者の考えを小学校側へ伝達していくことが求められる。「小学校入学前サポートシートリーフレット」、第5版「小学校入学前サポートシート」、第5版「小学校入学前サポートシート記入例」については資料1～3にて取り上げた。

3. 小学校入学前サポートシートに関する保護者簡易アンケート調査について

茨城県の某幼稚園の年長児の保護者14名を対象とし、20XX年1月記述式アンケート調査を実施した。質問紙の内容については事前に本研究で使用する旨を文書において伝達し、承諾を得た。記述式アンケート調査結果（設問①～⑥）は以下の通りである。

- ① これまでに全ての保護者を対象とした就学前から小学校へ幼児の実態を引き継ぐための「入学前サポートシート」のようなものを見たことがありますか。（ある・なし）とした。その結果、14名全員が「小学校入学前サポートシート」のようなものを見たことがないと回答した。
- ② ①で「ある」と答えた方は、それはどのようなものですか。では回答はなし。
- ③ 小学校入学前サポートシート（保護者用）は必要ですか。（必要である 必要ない）とし、その理由を具体的にご記入お願いしますとした。その結果、全体の79%（11名）が必要であると回答した。また、21%（3名）が必要ないと回答した。それぞれの主な理由については表2に記載した。

<表2> 具体的な理由について

小学校入学前サポートシートは必要	小学校入学前サポートシートは必要ない
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの癖や性格などを知っていただけた方が保護者としても安心できるから ・幼稚園よりも小学校は親の目の届かない場所で生活するから（安心材料） ・より子どものことが分かってもらえて、小学校での入学がスムーズになり、子どものできないこと、不安なことがある時はこのようなシートだと伝えやすい ・幼稚園は先生方と話す機会が多いので子どもの事を良く教えてくれたが、小学校はこちらから聞かない限り何も分からないから（小学校生活に役立つ） ・本人の得意、不得意や交友関係（遊び方）を知っていた方がいじめの防止にもなると思ったから ・何より学校の先生が分かって下さると親 	<ul style="list-style-type: none"> ・心配ごとのある保護者には有効であると考えるから ・小学校との連携がとれている幼稚園では申し送り事項があるからそれで良い ・小学校にも家庭状況調査票があり、似たような項目があるから（どちらか一方が良い） ・日頃は幼稚園で活動しているので、お友達との接し方やイベントに対して積極的に参加できているか、生活や遊びのルールを守れているかなど細かく答えにくいと感じたから。ただ、改めて子どもの事について見直すきっかけとなる

も安心できる ・子どもを分かってもらえる (安心)	
------------------------------	--

「小学校入学前サポートシートは必要」と回答した保護者は、子どもの実態を知ってもらえるという期待と移行期において必要であるとする回答が多数である一方で、「小学校入学前サポートシートは必要ない」と回答した保護者は、項目の記述の難しさや小学校入学時の家庭状況調査票などの書類があるとの指摘や記入することの負担を危惧する内容もあった。

④本サポートシートをご記入いただいたお時間はどれくらいですか。では、記入時間の平均は24.6分であった。そのうち、最長記入時間は約60分、最小記入時間は約5分であった。

⑤「小学校入学前サポートシート」を見て、感じたこと、考えたことを具体的にお願います。では、以下の表3に整理した。

<表3>

感じたこと・考えたこと
<ul style="list-style-type: none"> ・「はい」なのか「どちらでもない」なのか、何とも言えない質問がありどちらに○をつけてよいか迷いがあった ・保護者記入欄にとりあえず記入したが、項目に合っているか不安であった ・親よりも幼稚園の先生(担任)の方がくわしいのではないかという項目もあったように感じる ・家ではできないことが幼稚園ではできることもあるので保護者記入欄の記載に悩んだ。どの程度活用されるのか・・・ ・記入しやすかった。「心の成長」の記入では、子どもの行動や気持ちの面など親にしから分からないことが事前に先生方に伝えられるところが良かった ・入学にあたり、あまり心配はしていないのですが、このようなサポートシートがあるとよりよい学校生活になると思った ・実際に記入した。どの程度まで記入すればよいか悩んだ。少し匂いに敏感なところがあるけれど、記入するほどのものではないと感じたので記入しなかった ・保護者記入欄があるので、細かく伝えることができるのが良いと思います ・子どもの成長や自立について改めて考え、自問自答しながら書きました ・保護者としての評価と先生方やお友達から見た評価はまた違ってくると感じた ・回収の際に、子どもの様子を伝達できるし、日ごろからよく見てくださっている先生方と小学校の生活が充実するよう、これからも協力し合って見守っていきたい ・保護者記入欄に何を書けば良いのか、質問が漠然としていて困惑した

表3より、基本的には年長の子どものすべての保護者が小学校の担任に伝わることを気にしており、記入欄に何を書いたら良いのかを慎重に模索している様子が読み取れる。ただ、よりよい小学校生活を送るためのツールとしての期待もある一方で、記入欄にどの程度の内容を記載すればよいか、悩んでいる保護者の姿も考察できる。

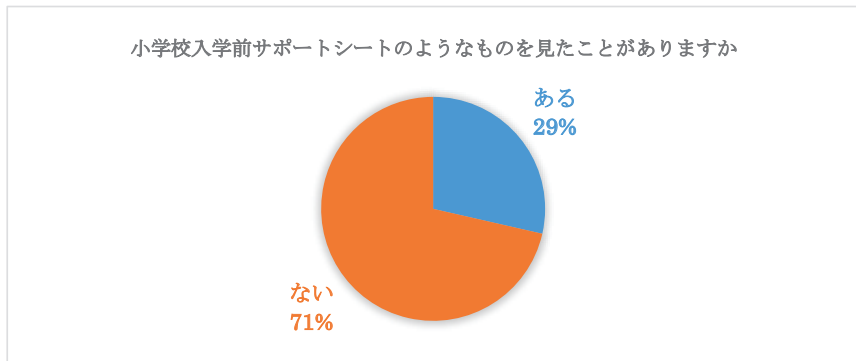
⑥その他(お気づきのこと)3名の保護者が記述した。主な内容は、「性格的な質問がなかったのは意外であった」、「もう少し選択項目を作っただけなら私の場合は書きやすかった」、「家と幼稚園での様子は異なるので例えば、『園ではこの子はこんな風です』等を園から小学校に伝えてほしい」とする意見が出された。

4. 行政側の幼児教育担当者簡易アンケート調査について

対象者は、市町村幼児教育担当者研修に参加した受講生 15 名とした。内訳は、幼児教育アドバイザー、指導主事、社会教育主事、就学支援相談員である。20XX 年 5 月の研修日にて記述式簡易アンケート調査を実施した。対象は、行政の幼児教育担当者が所属する茨城県 14 市町村、**I 市、K 市、J 市、T 村、T 市、I 市、D 町、H 市、S 市、M 市、S 市、T 市、A 町、N 市**とした。質問紙の内容については、研修日同日に本研究で使用する旨を口頭で伝達し、承諾を得た。簡易アンケート調査結果は以下の通りである。(設問①～⑦) *①の所属は省き、②より公表

②これまでに就学前から小学校へ幼児の実態を引き継ぐための「小学校入学前サポートシート」のようなものを見たことがありますか? ある ない

<図 1>



「ある」と回答した幼児教育担当者は 29% (4 名)、「ない」と回答した幼児教育担当者は 71% (10 名)であった。また、③の設問で、②「小学校入学前サポートシートを見たことがある」と回答した方は、それはどのようなものですか。(現行のもので改善点などあればご記入願います)については、以下の表 4 とした。

<表 4>

I 市	・小学校入学に向けて、生活面、行動面、学習面などを記入できるもの。(入学支援シート) *教育支援委員会で活用できるもの
T 村	・就学時健康診断時における保護者向けアンケート
M 市	・一貫教育支援シートとし、保護者の願い・本人への対応が記入できるもの *ただし、保護者のニーズを移行するものではない
N 市	・就学時健康診断時の前に回収、支援シートのようなもの(担当が異なるため詳細は不明)

③「小学校入学前サポートシート」を見たことがあると回答した担当者は、あくまでも教育支援委員会等の就学の判定に関する参考資料(保護者聞き取り資料)の一部として機能させることを目的とする内容の記述が見られた。

④「小学校入学前サポートシート」(保護者用)は必要ですか。この点に関する設問では、幼児教育担当者全員が必要であると回答した。主な理由は以下の表 5 の通りである。

<表5>

I市	・家庭での子どもたちの様子が分かるから ・保護者が自分の子をどのように捉えているかが見える
K市	・入学前の個々の状況を具体的に把握するために有効である。 ・アンケートを回収するタイミングを就学支援に活用できる方が望ましい
J市	・小学校に入学後に支援の必要性がある子（グレーゾーン）について保護者と話しをする時の共有資料として活用できる
T村	・保護者と学校側との共通理解、個人を支援する上でのツールのため
T市	・必要であるが、内容の検討が必要、就学時健康診断時（教育支援委員会のため）の再調査に生かせるようなものにできると良い
I市	・あれば良いが、文面で理解の仕方が異なる場合があるかもしれない
D町	・グレーゾーンで保護者対応が難しい子、保幼でノーマークの子に関して、小学校で情報が得られることは非常に有効だと感じます
H市	・小学校で特別な配慮（支援）が必要な子に対して何も引継ぎが行われていなかったことがあった。サポートシートがあれば良い
S市	・各幼稚園、保育園から統一した内容を聞き取ることができる。このサポートシートを使うことで保幼小の連携が密となる
M市	・M市のシートをさらに見直したいと思います
S市	・就学時健康診断で提出して頂ければ保護者の入学に向けた心の準備もできるのではないかと思います。そして、小学校で受け入れ準備をする際に役立つ資料である（もう少し早い時期であれば良い）
T市	・保護者の困り感を表現してもらうことで、心配に気づいてもらう意味もあると感じた
A町	・子どもをより適切に理解するために、情報は多い方が良いから
N市	・子どもの育ちや姿を少しでも理解する上で重要であると考えます ・記入の仕方によって保護者が細かい点についても不安になっているなど、保護者の考えにも触れることができます

⑤ 配布・回収時期はいつが望ましいですか？ 1～3に○をつけてください。

- A 11月中旬から下旬（入学前健康診断時に配布）し、回収は1月上旬（園で回収）まで
 B 11月中旬から下旬（入学時健康診断時に配布）し、回収は2月上旬（園で回収）まで
 C 11月中旬から下旬（入学時健康診断時に配布）し、回収は3月上旬（園で回収）まで
 D その他

<図2>

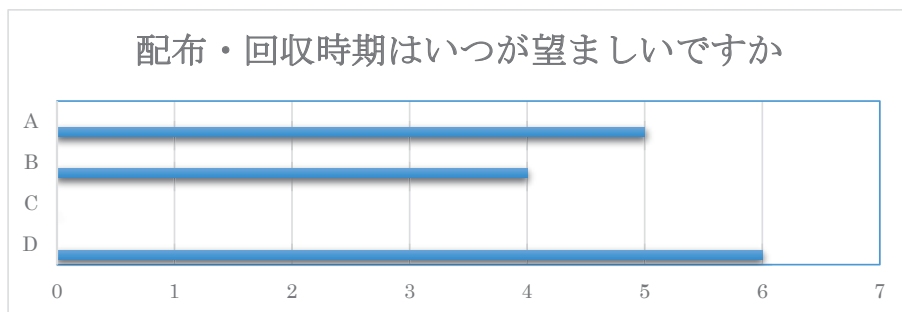


図2の結果は、D「その他」が多く見られた。その他の大部分は、就学時健康診断時に配布・回収する必要があるとする記述であった。また、配布の時期を見直し、回収は11月が望ましいとする記述や子どもの実態の変容から11月配布ではなく、3学期に配布した方が良いとする記述があった。I市では、引継ぎシートのツールを就

学時健康診断時に回収しているとの記載も見られた。

⑥小学校入学前サポートシートを見て頂き、改善点等がありましたら、ご記入願います。

<表6>*特になしは記載しない。

I市	・記入欄に自由に記入できるところが良い。本市でも参考にしたい
K市	・良く吟味されている
J市	・項目の表現の改善が必要
T市	・市外の園から就学してくる子も多いので、園で回収するとその後の集約が難しいかも知れない
I市	・文面に対して捉え方、考え方が難しい
D町	・最後の自由記述欄がもう少し広いスペースがあると良い
S市	・担当職員名は少し分かりづらいので住所の下に位置した方が良い
M市	・手立てについて記入する欄があると良い
S市	・保幼小接続カリキュラムとも整合する内容で良い
T市	・とても素晴らしいものなので参考にさせて頂き、今後活用していきたい
A町	・具体例があった方が答えやすい設問になると思う
N市	・参考にさせて頂きたい

改善点等については、主に、書式（記入欄）に関する点、項目の表現の工夫・改善点などがあげられた。

⑦保幼小の連携を図る上でご意見があればご自由にお書きください。（提案なども含む）

<表7>*特になしは記載しない。

I市	・行政側からも横のつながりを意識することが大切だと実感しました
K市	・私立の幼児教育施設との連携について今後検討を図る必要があると感じる
I市	・保幼小の連携を図るためにはお互いに歩みよることが大切だと思います
D町	・保幼小の先生方と相談し、今年度から活用していきたい
H市	・ご提供いただきありがとうございました
S市	・「小学校入学前サポートシート」は素晴らしいアイデアである
M市	・入学前の体験授業をどの市町村でも行うと効果があるとする
T市	・私立の幼稚園との連携が難しい課題である
A町	・お互いの理解の促進、教職員が交流できる時期の検討、時間の確保が課題

上記の行政の幼児教育担当者の記述を考察すると、私立園との連携に困難さがあるとする記述（K市、T市）が見られた。

⑦表7の簡易アンケート記述後、実施したグループワークでは、「地域の特別な配慮を要する子どもの育ちと学びをつなぐための現状と課題」とし、各担当者による意見交換を実施した。以下の表8では、6つのグループ（ランダム）に分かれて協議を実施した。協議の検討方法は、各担当者が考える地域の現状と課題を意見交換した後、付箋紙に記入したものを模造紙に貼り、グループごとに分類し、発表を行った。

以下は、著者が各グループの現状と課題について主なカテゴリーごとに整理したものである。

<表 8 >

地域の特別な配慮を要する子どもの育ちと学びをつなぐための現状
<p>①連絡協議会の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保幼小連絡協議会を年に2回程度実施（小学校区ごとの研修会の実施） ・ 公立や私立園の幼児教育施設と小学校の連絡協議会を開催 ・ 中学校区ごとに区割りして実施 <p>②定期的な情報交換・情報共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各小学校担当者が幼児教育施設へ出向き伝達（小学校主体） ・ 個別の情報交換の実施（クラス編成資料の準備） ・ 小学校の特別支援教育コーディネーターが幼児教育施設を必要に応じて訪問 ・ 園の訪問を実施（公立のみ） <p>③行政としての役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調査員による訪問依頼 ＊ 教育支援委員会に提出された園児は市の調査員が園を訪問・調査（保護者同意の上、小学校に情報提供） ・ 市の保健福祉部との連携（5歳児健診）、教育委員会から子どもの情報を提供 ・ 特別支援の対象者については担当課より保護者の同意を得て小学校へ情報提供 ・ 教育支援センターを設置し、就学指導を実施 ・ 福祉課が移動発達相談を実施（保健師等） ・ 個別ファイルを作成（行政保管）
地域の特別な配慮を要する子どもの育ちと学びをつなぐための課題
<p>①公立園と私立園の引継ぎ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 私立園（幼稚園・保育園）の園長の考えによっては情報共有が困難 ・ 公立・私立では引継ぎの温度差が有、後者は小学校が質問しないと必要以上の情報を提供してくれない ・ 私立園との連携が難しい ・ 公立幼稚園が配慮を要する子の受け皿になっている ・ 配慮を要する子に対する指導に園差有 <p>②保護者へのアプローチ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者の同意を得ることが難しく、教育支援委員会に提出できない ・ 保護者の理解が難しい（個別的教育支援計画・教育相談） ・ 発達障害のある児童の保護者へ対応のあり方の検討が必要（職員の研修が必要） 園では集団生活で上手く適応していた子が小学校において不適応有 ・ 小学校の担任と保護者との信頼関係が幼稚園の担任より弱い傾向 <p>③育ちと学びをつなぐことの困難さ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1つの小学校に20園から園児が入学（現状の引継ぎでは難しい） ・ 特別支援教育の充実が必要（諸検査の提示の方法） ・ 保護者への声かけ（グレーゾーンの保護者への対応） ・ 引継ぎの仕方が確立されていない（ファイルの引継ぎなど） ・ 二重三重の体制で子どもの現状把握をしているが、すべての子どもの困り感については把握できていない。 ・ 幼児教育施設ではトラブルを避けるため子どもの本当の姿を保護者に伝達することに苦慮

グループワーク協議では、「地域の特別な配慮を要する子どもの育ちと学びをつなぐための現状」として、①連絡協議会の活用、②定期的な情報交換・情報共有、③行政としての役割の3つのカテゴリーに分類された。特に、グループワークでは、教育支援委員会調査員による実態把握、小学校（中学校）区における個別の情報交換など連絡協議会（ブロックごとに小学校が主体）が行われていること。引継ぎのための「個別ファイル」が存在していること。保健福祉部関係の部署との連携の重要性などが指摘されていた。

「地域の特別な配慮を要する子どもの育ちと学びをつなぐための課題」は、①公立園と私立園の引継ぎについて、②保護者へのアプローチ、③育ちと学びをつなぐことの困難さの3つのカテゴリーに分類された。特に、グループワークでは、「公立・私立園」の連携に温度差があること。私立園の移行期における取り組みに課題があるとする意見が多く出されていた。また、全体的に小学校区においての引継ぎの仕方が確立されていないこと、すべての子どもにおける困り感等の把握も必要であるとする意見も検討されていた。さらには、保幼小の連携を図る上では、配慮を要する子の保護者に対し、丁寧に向き合うことが必要となること、支援の同意を得るために保護者へいかなるアプローチを行うべきかが連携を図る上での課題とされた。

5. 考察

「小学校入学前サポートシート」に関する年長の保護者簡易アンケート調査では、約8割(79%)の保護者が必要であると回答し、その理由の大部分が小学校入学期移行期において子どもの「安心」をつなぐためのものであるとされた。すべての保護者を対象とした「小学校入学前サポートシート」の活用によって、入学前の保護者の子どもに対する不安や思い、要望などを移行し、支援の手立てを検討する材料とすることもできる。また、回収の際に保育園や幼稚園等の担任が、悩みを抱えている保護者に対してアプローチを行うことも可能とされる。行政の幼児教育担当者によれば、質問項目④「小学校入学サポートシート(保護者用)は必要ですか」では、すべての幼児教育担当者が「必要である」と回答した。記述の多くは、子どもと保護者(家庭)、就学前(保育所・幼稚園等)と小学校など移行期における連携の充実が必要であるとする内容であった。特に気になる記述は、「地域の特別な配慮を要する子どもの育ちと学びをつなぐための課題」に対する回答に見られるように、私立園等との連携の難しさや公立と私立では引継ぎの温度差があるとする記述が見られることから、行政側がいかにして私立園との連携を図るための施策を講ずることができるかが、保・幼・小連携を図るための課題となるであろう。保護者に対して向き合う際には、「保護者が子どもを肯定的に受け入れることができるよう、働きかけていくこと」⁹が最重要課題であるとされる。例えば、保護者記入用項目で、「どちらでもない」と回答した場合であっても保護者に対してアプローチをかけるきっかけを作ることができ、子どもの成長に寄り添うことができる。また、保育所・幼稚園等の担任と保護者が子どもを見る視点が異なる場合には、その実態を連絡協議会等で小学校の担任に対し、口頭で引き継ぐことも可能となる。そのため「小学校入学前サポートシート」が果たすべき期待とその役割は大きいと推察される。移行期においては、障害のある、なしに関わらずすべての子どもの保護者に寄り添いながら移行期の不安の解消に努めることが必要とされる。そのためには、各小学校ブロックの保幼小接続コーディネー

(24)

ター、園内リーダー、特別支援教育コーディネーター、各担任教諭との連携を強化し、連絡協議会の場で移行期における諸課題を柔軟に話し合い、解決していくための環境の整備が急務であろう。

<資料1> 第5版小学校入学前サポートシートリーフレット
(以下、調査に使用した質問紙等について参考資料として)

小学校入学前サポートシートを活用するにあたって

「小学校入学前サポートシート」は、お子さんが小学校での環境にスムーズに適応し、安心して生活することができるようにするためのツールです。得意なことを一つでも多く見つけ、それを伸ばすことができる環境を用意することを目的としているため、すべての保護者を対象としています。これまでのご家庭での取り組みや園での生活状況をご記入頂きたく存じます。

<仮作成スケジュール>



*療育機関等については、相談等を受けているのであれば、協力を依頼してご記入いただければと思います。

<問い合わせ先>

<住所> 〒311-0114 茨城県那珂市東木倉 960-2
<TEL> 029-298-0596 茨城女子短期大学保育科 担当 梶井 正紀

<資料2> 第5版小学校入学前サポートシート

小学校入学前サポートシート（保護者用）

～保幼小のスムーズな接続のための支援ツール～

<記入方法>

- ① 小学校に伝えておいてもらいたいことや配慮してほしいことを記入します。すべての項目にご記入ください。
 ② 保育所（園）・幼稚園・療育機関等と相談して記入する場合には必ず担当職員の名前を記入してください。

幼児名	ふりがな
保護者名	
担当職員名	機関名（ ） 療育機関等と相談して記入する場合には記入
住所	〒

- 1 小学校で自信をもって生活を行うためにも現在のお子さんの「学びに向かう力」についてご記入ください。
 「はい」、「どちらでもない」、「いいえ」を○で囲んでください。

*保護者記入欄につきましてはできる限りご記入ください。

項目	保護者記入欄		
自分の名前を書くことができる。	はい	どちらでもない	いいえ
自分の考えを相手に伝えたり、相手の考えを聞いたりすることができる。	はい	どちらでもない	いいえ
数字を1から10まで数えることができる。	はい	どちらでもない	いいえ
工夫して遊ぶことができる。	はい	どちらでもない	いいえ
走る、スキップ、跳ぶ、投げるなどの動作ができる。	はい	どちらでもない	いいえ
見たものを形として捉えることができる。	はい	どちらでもない	いいえ

- 2 小学校で自信をもって生活を行うためにも現在のお子さんの「生活上の自立」についてご記入ください。

項目	保護者記入欄		
自分で衣服（ボタン）・靴の着脱ができる。	はい	どちらでもない	いいえ
1人で食事ができ、箸を使うことができる。	はい	どちらでもない	いいえ

大便が1人ででき、手を洗うことができる。(衛生面)	はい	どちらでもない	いいえ	
あいさつや返事ができる。	はい	どちらでもない	いいえ	
ルールを守って生活することができる。	はい	どちらでもない	いいえ	
自分の物と友達のものとの区別ができる。	はい	どちらでもない	いいえ	

3 小学校で自信をもって生活を行うためにも現在のお子さんの「心の成長」についてご記入ください。

項目	保護者記入欄			
自信をもって意欲的に取り組むことができる。	はい	どちらでもない	いいえ	
大人や友達との約束を守って行動することができる。	はい	どちらでもない	いいえ	
気持ちをコントロールして活動することができる。	はい	どちらでもない	いいえ	
「ありがとう」などの感謝の気持ちを相手に伝えることができる。	はい	どちらでもない	いいえ	
特定の音や匂い、人ごみなど気にせずに行動することができる。	はい	どちらでもない	いいえ	
友達とつながりをもち、遊びの中で充実感・達成感を味わうことができる。	はい	どちらでもない	いいえ	

<小学校に伝えておきたいことがあればご自由にお書きください>

*お子さんの実態を記入することで、小学校での成績に関係するものではありません。
連携を図るためのサポートツールです。ご協力宜しくお願いします。

小学校入学前サポートシートを小学校へ引き継ぎ情報を共有することに同意します。

令和 年 月 日
保護者氏名 印
<作成者> 茨城女子短期大学 梶井 正紀

<資料3> 小学校入学前サポートシート記入例

小学校入学前サポートシート（保護者用） ～幼児小のスムーズな接続のための支援ツール～

<記入方法>

- ① 小学校に伝えておいてもらいたいことや配慮してほしいことを記入します。すべての項目にご記入ください。
 ② 保育所（園）・幼稚園・療育機関等と相談して記入する場合には必ず担当職員の名前を記入してください。

幼児名	ふりがな ひたちなか たろう ひたちなか 太郎
保護者名	ひたちなか 太郎
担当職員名	機関名（ 支援センター ） 心理専門員 梶井 正紀 療育機関等と相談して記入する場合には記入
住所	〒312-0033 ひたちなか市〇〇〇〇-1

- 1 小学校で自信をもって生活を行うためにも現在のお子さんの「学びに向かう力」についてご記入ください。
 「はい」、「どちらでもない」、「いいえ」を○で囲んでください。
 ＊保護者記入欄につきましてははできる限りご記入ください。

項目	保護者記入欄			
自分の名前を書くことができる。	はい <input checked="" type="radio"/>	どちらでもない <input type="radio"/>	いいえ <input type="radio"/>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;">記入例</div>
自分の思いを相手に伝えたり、相手の考えを聞いたりすることができる。	はい <input type="radio"/>	どちらでもない <input type="radio"/>	いいえ <input type="radio"/>	
数字を1から10まで数えることができる。	はい <input type="radio"/>	どちらでもない <input type="radio"/>	いいえ <input type="radio"/>	
工夫して遊ぶことができる。	はい <input type="radio"/>	どちらでもない <input type="radio"/>	いいえ <input type="radio"/>	
走る、スキップ、跳ぶ、投げるなどの動作ができる。	はい <input type="radio"/>	どちらでもない <input type="radio"/>	いいえ <input type="radio"/>	
見たものを形として認めることができる。	はい <input type="radio"/>	どちらでもない <input type="radio"/>	いいえ <input type="radio"/>	

- 2 小学校で自信をもって生活を行うためにも現在のお子さんの「生活上の自立」についてご記入ください。

項目	保護者記入欄			
自分で衣服（ボタン）・靴の着脱ができる。	はい <input checked="" type="radio"/>	どちらでもない <input type="radio"/>	いいえ <input type="radio"/>	自分で衣服のボタンをかけることはできる。靴も脱げるが、靴のかかとを踏んでしまう傾向にある。
1人で食事ができ、箸を使うことができる。	はい <input type="radio"/>	どちらでもない <input type="radio"/>	いいえ <input type="radio"/>	こぼさないように茶碗をもち、1人で食事はできるが、箸の使い方をたまた間違えることがある。

大便が1人ででき、手を洗うことができる。(衛生面)	はい	どちらでもない	いいえ	記入例
あいさつや返事ができる。	はい	どちらでもない	いいえ	
ルールを守って生活することができる。	はい	どちらでもない	いいえ	
自分の物と友達のものとの区別ができる。	はい	どちらでもない	いいえ	

3 小学校で自信をもって生活を行うためにも現在のお子さんの「心の成長」についてご記入ください。

項目	保護者記入欄			
自信をもって意欲的に取り組むことができる。	○	どちらでもない	いいえ	前向きに物事を考えることができるようになり、自信をもって取り組むことができるようになってきた。
大人や友達との約束を守って行動することができる。	○	どちらでもない	いいえ	大人が決めたゲームの時間や友達とのゲームの順番守って行動することができるようになってきた。
気持ちをコントロールして活動することができる。	はい	どちらでもない	いいえ	記入例
「ありがとう」などの感謝の気持ちを相手に伝えることができる。	はい	どちらでもない	いいえ	
特定の音や匂い、人ごみなど気にせずに行動することができる。	はい	どちらでもない	いいえ	
友達とつながりをもち、遊びの中で楽しさを味わうことができる。	はい	どちらでもない	いいえ	

<小学校に伝えておきたいことがあれば自由にお書きください>

*お子さんの実態を記入することで、小学校での成績に関係するものではありません。
連携を図るためのサポートツールです。ご協力宜しくお願いします。

小学校入学前サポートシートを小学校へ引き継ぎ情報を共有することに同意します。

令和 年 月 日
保護者氏名 印
<作成者> 茨城女子短期大学 梶井 正紀

<文末脚注>

- 1 本杉和美「特別な支援を必要とする子ども達のよりよい移行支援をめざして - 幼・小連携を通して -」2014年、3月、静岡大学大学院教育学研究科教育実践高度化専攻、P109
- 2 佐藤智恵「特別な支援が必要な子どもの保育所から小学校への移行に関する研究 - 子ども、保護者、保育者・小学校教諭の3者の語りの質的分析より -」2013年、保育学研究第51巻第3号、P116
- 3 文部科学省ホームページ「就学相談・就学先決定の在り方について」より抜粋
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryu/attach/1325886.htm
(2020年2月28日確認)
- 4 子育て支援と心理臨床編集委員会『子育て支援と心理臨床』2010年、福村出版株式会社、P41
- 5 全日本特別支援教育研究連盟編著『特別支援教育研究 NO.737』2019年、1月、P10
- 6 久原有貴・七木田敦・小嶋治鈴・松本信吾・玉木美和・金岡 美幸ら「発達に課題のある幼児の就学 支援シート作りに関する実践的研究：地域の小学校との連携を通して」2012年、広島大学 学部・附属学校共同研究紀要、P149
- 7 本杉 (2014)、前掲書、P114
- 8 河口麻希「『就学支援シート』を用いた特別なニーズのある幼児の移行支援：移行の時期に着目して」2015年、保育学研究 (第1部自由論文)、P183
- 9 坂本裕編著『合理的配慮をつなぐ個別支援カルテ』2017年、4月、P27